

第3学年社会科学学習指導案

日時 平成16年9月28日(火) 5校時
学級 3年1組 男19名 女子17名 計36名
場所 3年1組 教室
授業者 教諭 加藤裕子

1, 単元名 第2章 わたしたちの暮らしと民主政治 第2節 暮らしとつながる政治

2, 単元について

(1) 教材観

学習指導要領では、公民的分野における目標(1)に「個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任と義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う」とある。本単元は、政治的無関心、特に若者の投票率の低下問題を具体的に取り上げ、政治やマスコミとのかかわりについても理解させ、国民として1票の大切さに気付かせることをねらいとしており、内容(3)イにおける民主政治を推進するためには、公正な世論の形成と国民の政治参加が大切であることに気付かせる。その際、選挙の意義について考えさせたい。

(2) 指導観

本単元を第2節のまとめ的な学習とも捉え、既習事項をもとにして国民としての選挙の実態をロールプレイングの役割分担を通して、意見交換する中で、深く本質的なところまで政治や1票の大切さを考える力を付けたい。自分の意見を発表したり、相手側の意見を聞くことにより深まると考えている。また、考え判断しやすいように事前に多くの資料も活用させ学習を進めたい。

(3) 生徒について

生徒たちは明るく、特に男子が活発で意欲的に学習に参加し、発言力もある。また、政治への関心が高く、物事を深く考える力のある生徒も多い。女子は、おとなしく指名されないと発言できない生徒が多いが、深く考える力はあると思われる。また、クラス全体で話し合ったり、意見交換したりできる和やかな学級である。

公民の学習を通して、政治に関心を持ち始めている生徒も増え、本時では、一人一人が意見を発表したり、また学級の良さも生かし意見交換する場を設けることにより他者の考えを聞き自分の考えを深め、選挙や1票の大切さを実感させたいと考えている。

3, 単元の目標

- (1) 暮らしとつながる政治に対する関心を持ち、意欲的に追究する。 (関心・意欲・態度)
- (2) 暮らしと政治の関わりについて、広い視野から正しく考え判断する。 (思考・判断)
- (3) 暮らしとつながる政治に関する資料・新聞を活用し、課題を追究しまとめたり発表する。 (資料活用・表現)
- (4) 政治のしくみやはたらきを理解し、国民としての政治参加の大切さを知る。 (知識・理解)

4 , 単元の指導・評価計画 (1 4 時間扱い)

	学 習 内 容	評 価 規 準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解
1	地方政治は民主主義の学校だ	地域の問題をいかに解決するのかについて関心を持つことができる			地方公共団体の仕事について理解することができる
2	地方自治を支えるためのしくみ			資料を活用し、地方自治のしくみについて調べることができる	地方自治のしくみについて説明できる
3	自らを治める住民パワー	住民投票の現状について、関心を持つことができる	住民投票の重要性を考慮することができる		
4	地方自治の課題と「これから」			教科書の記述や資料から地方公共団体の課題についてまとめることができる	
5	地方自治と国の政治との関わり	国と地方公共団体の違いや関わりについて意欲的に考えることができる	国と地方公共団体の仕事の違いについて説明することができる		
6	代表者を通じて行動する		多数決の原理が用いられている理由を考慮することができる		直接民主制・代議制・二院制のしくみについて説明することができる
7	国会は国権の最高機関だ	国会の仕事やしくみについて、意欲的に調べようとする			国会の地位・仕事・種類について説明することができる
8	国会で選ばれる総理大臣			資料を活用し、内閣と国会の関係について説明することができる	内閣の仕事やしくみについて説明することができる
9	小さな政府を旨として		国民が行政に望んでいることについてその理由を考慮することができる	資料を活用し、行政のしくみについて説明することができる	
10	憲法の番人とよばれて		三審制や三権分立などのしくみになっている理由を考慮することができる		裁判所のしくみと国民の権利について説明することができる

11	わたしたちの人権を守るために		被疑者や被告人の人権がどのように尊重されているか考えることができる		民事裁判・刑事裁判・行政裁判についてそれぞれ説明することができる
12	1票の重みと意味	日本の選挙制度について意欲的に調べようとする		資料を活用し、小選挙区制と比例代表代表制のしくみについて説明することができる	
13	政党が目ざすもの	日本にどのような政党があるのか意欲的に調べようとする			二党制・多党制のそれぞれに基づく政治の形態について理解することができる
14	国民の声に耳を傾ける（本時）		投票しない理由や投票率を上げようとする取り組みについて考えることができる		政治的無関心・世論マスコミの意味を理解することができる

5, 本時の学習

(1) 授業の構想

導入で、資料を視覚的に活用し、投票率の低下の現状を理解できるようにさせたい。

展開の前半では、発表カードを利用させ、自分の考えをまとめ発表できる力をつけさせたい。

展開の後半では、生徒の本音の意見交換の中から、選挙の意義の大切さを実感させたい。

そのために、意見が出しやすいような雰囲気を作り出したり、友人と考える時間も作り、考えを深めさせたい。そして、選挙に行く気持ちにさせたい。

まとめでは、何となく分かっていることを重要な語句として、確実に理解させたい。

(2) 目標（評価規準と具体の評価規準）

	学習活動における評価規準	具体の評価基準		評価方法
		B「おおむね満足できる」	A「十分満足できる」	
思考判断	若者の投票率が低下している理由を考え、投票率を上げるための方法や手段について考えさせる。	自分の役割のところが考えることができる。	相手の意見を聞いて、現状を理解し、投票率を上げるための方法を考えることができる。	発言 机間巡視 学習プリント
知識理解	政治的な重要語句の意味を理解させる。	政治的無関心・世論・マスコミの意味を押さえ学習プリントに記入できる。	政治、選挙との関わりを理解し、語句の意味も理解し、学習プリントに記入できる。	学習プリント 発言

(3) 本時の展開

段階	学習内容と生徒の活動	教師の働きかけ	評価
導入 5分	1 衆議院と参議院選挙の投票率の低下について知る。 2 世代別投票状況について知り、若者層の投票率が低いことを理解する。 3 アンケート結果について知り、選挙に対する意識が現代の若者とほぼ同じことを確認する。 4 本時の学習課題を確認する。	・投票率の推移のグラフを提示し、低下している現状を理解させる。 ・若者(20~30代)が、特に投票していないことに気付かせる。	
学 習 課 題：若者の投票率を上げるためには、どうすればよいか。			
展開 35分 まとめ 10分	5 ディスカッションを行う。 ・選挙に行かない理由を発表する。 ・選挙に行く理由を発表する。 ・それぞれの意見交換をする。 アンケート結果を見せる ・行かない人が行くようになるために意見を出し合う。 6 投票率を上げるためにどうすれば良いと思ったかまとめ発表する。 7 ディスカッションの中で、出てきた重要語句を理解する。 8 次時の予告	・若者の投票率低下の原因と考えられる理由を理解させる。 ・選挙に行かない本当の気持ちを引き出し、絶対に行く気持ちになるための意見を出させ、その中で本当の選挙の意義に気付かせ理解を深めさせる。 ・本時のまとめとして、自分の考えを理由をつけて書かせ、発表させる。 ・政治的無関心、世論、マスコミ、棄権などの重要語句をはっきりと理解させる。	[思考・判断] ・自分の考えを発表できたか。 (発表カード) 支援：前時のアンケートを想起させる。 ・他者の意見を聞いて自分の考えを深めることができたか。 (発表観察) 支援：隣の友人と話をさせたり、意見をもらわせる。 [知識・理解] ・重要用語の意味を理解することができたか。 (学習プリント) 支援：黒板のカードの番号に気付かせプリントに記入できるようにする